

【びっくり!ふるさと納税の意外な真実】

5月25日に行われた総務常任委員会所管事務調査にて、平野が「ふるさと納税」の心配について質問

【質問趣旨】現在、国内でふるさと納税が活発になっているが、自治体によっては他都市から寄附される総額に対し、当該市民が他都市に寄附をすることで税額控除を受け、結果として本来入ってくるはずの住民税等の税収が減り、収支で赤字になる場合がある。岩見沢市の状況はどうか？

【岩見沢市の現状】

平成27年度は1,359件で1,719万2千円の寄附が市外からあった。これに返礼品代、送料、各種手数料等を差し引くと、平成27年度で1,122万2千円の実質的収入となります。一見すると1千万円以上の寄附収入があり、とてもありがたい制度ですが“岩見沢市民が他都市に寄附”した事で、本来岩見沢市に納税されるはずの市民税の税額控除が発生し、その基本的算出額でいくと約1,200万円にもなっています。結果として、平成27年度は約80万円の赤字ということが判明しました。とても良い制度に思える「ふるさと納税」の仕組みも、このような弊害があることを考えていく必要があります。

(*現在岩見沢市ではその改善も含め、ふるさと応援寄附管理業務の公募型プロポーザルを進めています。)

【岩見沢シビックプライド探求部って何?】

プレス空知や北海道新聞でも時折記事として掲載してくれている「岩見沢Civic Pride探求部」という集まりがあります。これまで5回の勉強会を開催し、参加者数は延べ150名を超えるほど好評です。主宰の平野が数年前から様々なまちづくりの実働を行う中で抱いてきた、単発花火型のイベントではなく、開拓から現在までのまちの歩みを学び、その延長線上で今後の岩見沢のまちづくりを説得力のあるものとして行うべき!という考えに基づき、まずは岩見沢の事を深く知ることから始めています。現在、歴史から追いはじめ、今後は岩見沢にある知られざる価値などを含め、岩見沢の誇りと魅力をわかりやすく編集して市内外で共有すること。それを目指して活動を展開しています。まさしく平野の政治信条である、議員としての公式な仕事と、議員であるがゆえにやりやすい議員以外の仕事という二面性をフルに活かしながら、岩見沢の未来のための歩みを進めています。

この岩見沢シビックプライド探求部の詳細は、公式ホームページを始め、これまでの勉強会の動画などもインターネット上に公開していますので是非探してみてください。(※シビックプライドとは、「地域への誇り、愛着」と訳せます)



《恒例!前回の一般質問内容をご紹介》

平成27年第4定例会(12月議会)において、安定した雇用の創出、地元企業が活躍するための環境づくり、また来るべき市民主体のまちづくりに向け、市民活動の機運向上に向けた提案を含め、大きく2点、細部では9点に渡り一般質問を行っておりますのでご紹介いたします。

(1) 安定した雇用や、活躍する場を増やすための取組について

- (1) 地元商工業振興について
 - ① 関係省庁との連携や窓口一元化等について
 - ② 市として取り組むべき地元企業支援について
 - ③ 地元における農商工連携について
- (2) 起業(スタートアップ)支援について
 - ① どのような支援展開を考えているか
- (3) 企業誘致について
 - ① 地方活力向上地域特定業務施設整備促進プロジェクト等の活用について
 - ② 企業誘致や本社機能一部移転等の現状と見込みについて

(2) 市民活動の機運向上に向けた取り組みについて

- (1) 活動支援体制の整備について
 - ① 短期的、中長期的な取り組みとして、どのような事を考えているか
- (2) 市民意識向上に向けた仕組みづくりについて
 - ① 市民活動団体等への支援方法について
 - ② 市民参加意識を高めるための取り組みについて

ちなみに、これらの一般質問内容と答弁は、毎回全戸配布される市議会だよりでは、僅か下図の容量まで簡素化してしまいますが、実際には質問だけで約8,000字の内容になっています。



*その答弁を含む全文は市議会公式ホームページの議事録検索若しくは平野よしふみwebサイトで見ることができます。インターネット環境が無い方は是非ご相談ください。

【平成31年岩見沢西高等学校1学級減の動きから徒然に。】

先日の報道でもあった通り、道教委の高校適正配置計画案で平成31年に岩見沢西高校を1学級減にすると公表されました。それを受けて岩見沢市高校適正配置連絡会議が開催され、平野も総務常任委員会副委員長として参加しています。一見すると子ども達の数が減っているのだから、それに合わせて学級が減るのはやむを得ないと考えがちですが、色々と分析すると岩見沢市内の高校に通っている学生は市内からが約6割、残りの約4割は市外からきています。その傾向の裏付けとして、ある町の高校では定員40名に対し実数が19名、その内地元から通っているのは僅か4名という状況です。これが地方の実態です。その様な状況に手をつけず、分母の大きい岩見沢をどんどん削減していくことに再考を求めることが必要です。また道教委自らが示している1学年の適正学級数は4~8クラス。西校は計画通り削減されると4から3学級に減ってしまい、もっと少ない地方の学校が残っていく矛盾もあります。根幹として、まずはそれぞれの学校が選ばれる努力をするのは自治体と同じで急務です。

編集後記

●昨年の統一地方選挙では後援会の皆さまに大変お世話になりました。事務局側にも不慣れなことが多く、皆さまに対して失礼なことにはなかつたかとハラハラする日々でした。●さて、この度の『後援会通信No.4』はいかがでしたか?前回の発行から7ヶ月しか経っていませんが、その間にも平野議員の活動範囲は「子育て」「観光」「議会運営」へと広がりました。●さらに議員活動以外での街づくり活動では、街づくりに熱くなれる人達がこんなにもいたのかというほど、人脈の広がりをみせています。今後は楽しみでなりません。●当後援会ではこれからも「責任世代による本気の行動」を背負う平野よしふみ議員を全面的にバックアップしていきますので、皆さまのお力もお知恵も叱咤激励もいただけますよう、引き続きよろしくお願ひします。●最後になりましたが、次回報告会・交流会(表面記載)で多くの方々とお会いできることを楽しみにしています。

平野よしふみ後援会 事務局長 中谷俊雄